

佐渡金銀山紙芝居 「こがねの山-佐渡 相川佐渡金銀山発見伝-

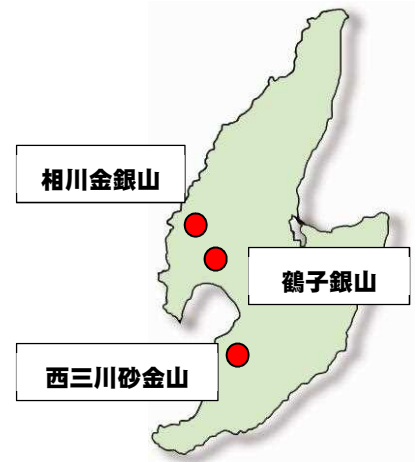
おはなしのかいせつ

◆はじめに

日本海に浮かぶ佐渡島には、かつて日本最大を誇った佐渡金銀山があります。400年以上にわたる金生産技術の変遷が分かる遺跡群をはじめ、金生産を支えた人々の生活の様子を物語る集落遺跡やまちなみを見ることができる、世界でも極めて貴重な遺産として、現在世界遺産登録を目指しています。

その佐渡金銀山の1つで世界的にも有数の金産出量を誇った相川金銀山は、慶長6年(1601年)7月、鶴子銀山にいた3人の山師、渡辺儀兵衛、三浦治兵衛、渡辺彌次右衛門が発見した、という言い伝えが史料として残っており、今回の紙芝居は、その史料を参考に物語を創作しました。

発見当時は、今のような近代的な機械などはもちろんなく、経験と知識を頼りに、金銀の鉱脈を追い求める、その努力と人々の熱意を、新潟市出身の絵本画家黒井健さんの美しいイラストとともに想像しながら、楽しめる内容となっています。



◆紙芝居のあらすじ

絵 / 黒井 健

脚本 / 新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室
佐渡市世界遺産推進課

鶴子銀山で、銀を稼いでいた3人の山師、儀兵衛、治兵衛、彌次衛門は、もっと大きな鉱脈を見つけるために、相川の山の中に探しに行くがなかなか見つからない。あきらめかけたその時、儀兵衛が見たものとは…



◆登場人物の紹介



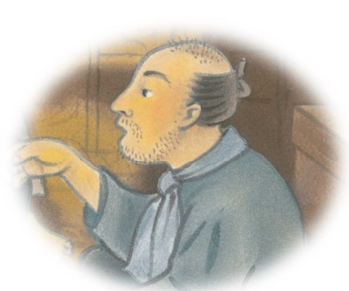
儀兵衛

真面目な性格で、仕事も一生懸命。3人の中ではリーダー的な存在。



治兵衛

明るい性格で、お酒が大好き。すぐに酔っ払ってしまう。



弥次右衛門

手先が器用で仕事も早く、いつも金を掘り当てて大金持ちになることを夢見ている。